



2017年12月28日

StageIV進行胃がんに対する免疫細胞治療の有効性調査に関する論文が 学術誌『Anticancer Research』に掲載されました。

医療法人社団滉志会瀬田クリニックグループは、StageIVの進行胃がんに対する免疫細胞治療の治療効果を検証するため後ろ向き調査研究(過去のデータを調査・分析する研究)を行い、本研究結果をまとめた学術論文(*1)が、がん免疫分野の学術誌『Anticancer Research』に掲載されましたのでお知らせいたします。

近年、本邦において胃がんは患者数、死亡者数ともに減少しつつありますが、2015年の調査における部位別のがん死亡者数では、男性で2位、女性で3位と、依然上位を占めており、また罹患者数も非常に多いのが現状です。特に、遠隔転移があり手術が適応されない患者さんにおいては、5年生存率が2～15%と極めて予後不良であり、新たな治療法の開発が求められています。

本研究では、1999年4月1日から2016年9月30日までに瀬田クリニックグループを受診した胃がん患者さんのうち、免疫細胞治療を6回以上受け、且つ画像診断による評価が可能な、StageIVと診断された242人を対象に、免疫細胞治療の治療効果について過去のデータを用いて評価・検証を行いました。

[今回確認された主な研究結果]

- 免疫細胞治療実施前に前治療として外科手術を受けている症例は予後が有意に良好であった。免疫細胞治療によって臨床効果が確認された症例は予後が有意に良好であった。
- 多変量解析より、外科手術(前治療)の実施および免疫細胞治療による臨床効果が、独立予後因子であることが示唆された。
- 免疫細胞治療に関連する重大な有害事象は確認されなかった。

本研究より、免疫細胞治療がStageIV進行胃がん患者さんの生存を延長し得ることが示唆されました。

今回の結果は単施設の後ろ向き研究(過去のデータを調査・分析する研究)によって得られたものであることから、今後さらに多施設での前向き研究(試験デザインを予め決めて、治療データを集める研究)による評価・検証が必要です。また、近年、がん治療分野において大きな話題となっている免疫チェックポイント阻害薬(*2)は、患者さんの体内免疫応答を強化する免疫細胞治療と併用することでさらなる相乗効果が期待されています。このような免疫チェックポイント阻害薬との併用の可能性を含め、瀬田クリニックグループは今後も、臨床現場で得た最新の知見や研究結果等を速やかに治療に応用するとともに、研究成果に係る情報発信を継続することで、がん免疫細胞治療の発展に貢献してまいります。

以上

本件に関するお問い合わせ:

医療法人社団 滉志会 法人本部

東京都千代田区神田駿河台 2-1-45 ニュー駿河台 ビル 4F

TEL: 03-5244-5750 URL: <http://www.j-immunother.com/>

Email: info@j-immunother.com

(*1) Efficacy of Adoptive Immune-cell Therapy in Patients with Advanced Gastric Cancer: A Retrospective Study

(*2) 免疫チェックポイント阻害薬: がん細胞によりブレーキがかかった状態にある T リンパ球の攻撃性を回復し、抗腫瘍効果を誘導・発揮する働きをもつ抗体医薬。

【 医療法人社団滉志会 瀬田クリニックグループについて 】

1999年3月、免疫細胞治療の専門医療機関として「瀬田クリニック」を開院、現在は、瀬田クリニック東京(東京都千代田区)、瀬田クリニック新横浜(神奈川県横浜市)、瀬田クリニック大阪(大阪府吹田市)、瀬田クリニック福岡(福岡県福岡市)の4クリニックを開設しています。開院以来、20,000名を超える患者さんに対し、18万回以上の治療を提供しています(2017年12月現在)。2009年に設置した臨床研究センター(現:臨床研究・治験センター)では、開院以来の治療実績から抽出した臨床データの解析に加え、大学病院、地域中核医療機関等との共同臨床研究を行い、Evidenceの強化、治療効果の更なる向上に取り組んでいます。